

防衛相、米軍HPで確認

自衛隊機 今後の運用懸念

「衝撃だ。全世界で運用している機体だけに、影響は計り知れない」。米軍の飛行停止措置について、ある自衛隊関係者はこう語った。防衛省が把握している限り、オス

ブレイ全機の飛行停止は前例がないという。

木原稔防衛相が米軍の停止措置を最初に確認したのは、国会審議に出席中の7日午前中だった。

発表があったという連絡を事務方から受けたといふ。野党側から「防衛相がこういう重大な情報をキャッチするタイミングが一般の方と同じとは驚いた」と語った。（共産・山添拓）

氏）との声が漏れたが、ものの、米軍側は聞き入れなかつたといふ。しかとすると新たな情報が発信されるかもしれないといつ事前連絡は頂いていた」と語つた。

日本政府は事故後、米側に対し、国内配備の全てのオスブレイを対象に飛行停止を要請。これに對し、米側は「全てのオスブレイは徹底的かつ慎重な整備と安全点検を行つた上で運用されている」と主張し、事故機と同型のCV-22を除き、飛行停止に応じる姿勢を示さなかつた。政府関係者は「米軍は事故を起こしたCV-22と、それ以外の機種は別物だと考えていいのだろ」と語る。

全性を懸念する地元の声に配慮せざるを得ず、今後の運用に後ろ向きになる恐れもある。戦力として使えないなることが一番心配だ」と話す。（成沢解説、田嶋慶彦、松山紫乃）